

(質疑応答) 20240509 - 10 住民説明会

【第1回】

- ・現状と同様に絵本館と図書館が分かれてしまうことになるが、子どもと大人の利用を分断することになり、そのことが子どもの本離れにつながらないか。
→今回はプールと絵本館の複合施設とすることで、多世代交流を促したい。また絵本館は通常の図書館の使われ方とは異なり、にぎやかに過ごしてもよいという事もあるので、これまで通り分けた計画で考えている。プール絵本館と公民館は建物としては近接した計画として連携を促したい。
- ・プールは水蒸気が発生するが、絵本館とプールの相性が悪いのではないか。また、空調のランニングコストもかかるのではないか。
→複合施設とすることで、多世代交流を促すという狙いがある。絵本館を2階に配置することによって塩素と湿気の影響に配慮し、空調、除湿によって本に影響がないように検討する。中間期は自然通風の利用、再生可能エネルギー導入によって、ランニングコストを抑える検討をしていく。
- ・多目的ルームの床仕上げはどのように考えているか。
→子どもの利用を考慮するとクッション性のあるものがよいと考えているが、多目的に利用できることを念頭に検討したい。
- ・鏡は図だと1面だが、2面なのか。バレエに使える手摺はあるのか。
→ダンス環境の要望が高まっている中で、今後の整備を検討したい。鏡、手摺等については、意見を聴取したうえで具体的に検討したい。
- ・絵本館について、開架の面積を広くできないか。今までは絵本館の2階と世代交流センターも使っていたので広く利用ができていた。ゆったりと絵本を見られるようにしたい。
→絵本館開架については、多目的ルームも含めて可変性のある計画で対応できるように検討したい。
- ・本棚間隔はどれくらいか。
→現時点では本棚間の有効幅 1.5m 程度で想定している。車いすも通行できるように配慮する。

- プールと絵本館を一緒にすると絵本館が狭くなるのではないか。本を読むところと体を動かすところ（世代交流センター）が一緒であるのがよかった。多目的ルームが狭いのではないか。
→今回計画では、世代交流センターのような体育館規模の施設を計画することは難しい。
多目的ルームは、可能な限り多用途に活用できるようなものとしたい。
- エネルギー効率も考えると、プールは吹抜ではなくて一層分の高さとできないか。その分プールの上に床面積を増やせないのか。
→床面積が増えた分だけ、建設コストは増加することになる、現状の計画では難しい。
プール空間の気積については引き続き検討を進めていきたい。
- この施設にはエレベーターは付けるのか。
→一機エレベーターを設ける想定である。
- 再生可能エネルギー手法は補助的なものであると思うが、主たるエネルギー源は何か。
→主たるエネルギー源は電気となる。ボイラーのバックアップも含めると重油なども想定される。電気の使用量を減らすために再生可能エネルギー手法によって削減していくという考え方になる。
- ボイラーは何種類となるか。
→木チップボイラーと重油の2種類となる。今後の計画でイニシャルコスト・ランニングコストについて最適化したい。
- サークルなど、どこにも所属しない人も気軽に訪れることのできる場所が絵本館だと考えている。子供に限らずお年寄りも気軽に活用できるような場所になるとよいと考えている。
→これまでの絵本館の使われ方が損なわれないように検討したい。

【第2回】

- プールの消毒方法は塩素を使うのか。アトピーのある子どもたちにも配慮したほうがよいと考える。アルペンホテルは塩素以外の方法(追記：食塩分解による次亜塩素酸)により消毒をしているようである。
→消毒方法については最適な方法を検討する。
- 授業利用をするときを考慮すると更衣室が狭くないか。既存のプールの更衣室はかなり狭かった。特に子どもは上のロッカーは利用できないということもある。
→現時点では各 60 箇所ずつの想定である。ミーティングルームなども更衣室として利用できるように想定している。
- エレベーターはついていないのか。
→1機想定している。車いすやベビーカーも乗り入れ可能な大きさである。
- イメージパースは現実的な大きさか。
→スケールを合わせた空間の広さでイメージは作成している。
- 子どもが自由に使えるスペースをできる限り確保していただきたい。
→運営も含めて複合交流拠点施設として整備を進める。
- 従来方式とした理由を聞かせてほしい。
→先進事例を踏まえて検討をしてきたが、従来型+指定管理方式(プール)で考えている。スケジュール等を考慮して従来方式とした。
- プールに関して、木質チップの調達の見途は立っているのか。
→製材の過程で発生する木チップを羊蹄森林組合から調達することを検討しており、現在調整している段階である。
- RDF の利用は考えていないか。
→検討はしたが、RDF 単体のボイラーが製品として完成されていない現状がある。他のボイラーを流用する例もあるが、黒煙・ニオイの発生が懸念されるため、現時点では市街地において安心・安全に燃焼することが難しいため、見送らせていただいた。方針としては燃焼効率のよい木チップボイラーとして検討をしている。

- ・ 現存するプールを積雪発電の実証実験施設としての利用は考えていないか。
→ 現段階では計画はないが、積雪発電は今後有用性について、検証していく可能性はある。
- ・ 湿気対策を考慮すると木材の利用がよいのではないかと考えるが、木造とする余地はなかったのか。
→ 木造のプールの事例はあるが、湿気に恒常的にさらされると木材は腐食のおそれがあり、接合金物も腐食のおそれがあるため、維持管理に相当の負荷がかかる。絵本館を木造とすると、混構造となりコスト高となる。躯体は RC、内装を木質化するというところで検討している。
- ・ 耐用年数はどれくらいか。
→ 躯体では 80 年程度である。建物としては設備的劣化、社会的劣化も考えられるので 50 年程度のスパンで考えている。
- ・ メンテナンス性が悪く建替えられないことがある。維持管理を含めて考えてもらえるとよい。
→ 維持管理がしやすい施設の長寿命化をしっかりと検討していきたい。
- ・ 外壁の厚さはどれくらいか。
→ 躯体は 18Km 程度となる。外壁の外に断熱材を張り付ける想定である。
- ・ 内壁はどうなるのか。反響音について考慮してほしい。
→ 絵本館や多目的ルームは、内装材において吸音材と反射材のバランスをとって聞き取りやすい音環境を検討する。
- ・ 床材はどのようなものが考えられるか。
→ 水分を吸う素材はあまり推奨しないが、協議の上検討する
- ・ 絵本館の理念を理解したうえで子どもも大人も育つ場所であってほしい。
→ 間仕切は防音機能、床は防振機能を検討していきたい。
- ・ 羊蹄山は室内から望めないのか。
→ 町役場では展望テラスを設けているが、今回計画は立地、建物規模から羊蹄山を望める室を計画することが難しい。羊蹄山を想起させるようなサイン計画など、羊蹄山を尊重した取り組みについては、今後検討していきたい。

【第3回】

- ・絵本館について、蔵書数2万冊という事だが、2万冊だと少ないと考えている。2.5万～3万冊程度はいかがか。学校図書と連携した活用を考えて欲しい。
→既存の冊数は維持したい。まずは絵本館を有効に活用していくという視点で、多目的ルームを含めて柔軟に対応がしやすい施設として整備をしていきたい。
- ・学校図書の司書について、町内にひとりでも司書を置いていただき、学校図書と絵本館の連携を図ってはどうか。
→学校の読書活動を含めてどのように活性化も重要であるが、本計画においては、まずは絵本館の運営を充実される事もすることが必要であると考えている。
- ・幼児用プールについて大きさの想定はあるか。またプールの深さについて、小さい子どもは水慣れから始めるが、浅すぎると使い勝手がよろしくない。
→幼児用プールの大きさ、深さは今後検討していきたい。
- ・サークル活動で幼児用プールで利用する人数は15～16人程度＋保護者で20人程度利用する想定がある。ジャグジーをやめて幼児用プールを広げるという選択肢もあると考える。
→貴重な意見として頂戴する。
- ・プールのろ過装置について、どのような形式を想定しているか。塩素濃度を低くしてほしい。
→塩素濃度等、安全性、健康に配慮したうえで検討していきたい。
- ・排水溝について、吸入口の事故については考慮してほしい。
→事故に十分に配慮したうえで検討していきたい。
- ・図書室と絵本館が大きく離れている。連絡通路をつくることは考えられないか。
→今回の施設については、同一で計画の中で整備することは難しい。
- ・町民への税負担はどのようになるか。
→町の財源は利用することになるが、補助金、地方債を積極的に活用し、一般財源の負担を軽減するような方針である。

- ・町民使用料はどのくらいを想定しているか。リーズナブルに利用できるようにしてほしい。
→絵本館はこれまで同様無料で利用できる。プールも今後の検討であるが、大きく金額が上がるという事はない予定である。
- ・プールをどのように運営するのか。年間の維持費はどの程度にかかるのか。
→具体的にはお答えできないが、維持費のかからない施設として整備をしていく方針である。
- ・本とプールの相性は良くないが、本が傷んだ場合は責任の所在はどのように考えているか。
→町の施設起因によって備品の損害等が発生した場合は、町の責任となると考える。
- ・車椅子利用など完全なバリアフリー化をお願いしたい。
→バリアフリー化は計画する。現状の町の施設での課題点など、情報があればお伝えいただきたい。
- ・多目的ルームに関して、専門家に相談されたのか。利用者の声を積極的に聞く機会を設けたほうがよい。
→利用者視点、管理者視点からの施設のヒアリングは行ってきたが、今後も利用者視点の意見は集めていきたい。
- ・眺望について、羊蹄山を望めないか。
→立地の制約上羊蹄山を望むことが難しい。
- ・プールを見下ろして回遊できるような空間がよいのではないかと。メンテナンスもしやすいのではないかと。
→貴重なご意見として頂戴する。
- ・火災時の避難用の滑り台の設置は想定していないか。
→今回は保護者が同伴している前提のもと避難する想定であるため、現時点では想定していない。
- ・風雪に関して、東側にエントランスがあるが、雪庇対策は問題ないか。
→パラペットの立ち上がりを設けて雪庇の発生を抑え、万が一の落下に備えて庇を設ける計画である。

- この計画は白紙とすることは考えないか。
→スケジュール上、施設の完成が数年遅れてしまうことになり現実的ではなく、白紙に戻すという事は考えていない。

- 絵本の蔵書が2万冊を超えた場合はどうするか。
→開架に置く本に加え、閉架を整備することで、有効に活用できるよう整備したいと考えている。

- プールを主とした表現が若干気になる。
→恣意的に序列をつけるという意図はないのでご了承ください。

- 大人も利用する本もより必要ではないか。
→成長に合わせた本を整備していくことは重要であると考えている。

- プールの落下物について懸念している。
→できるだけ天井に物をつけない計画とするなど、落下防止についての対策を検討したい。

- プールの管理を指定管理者制度とする場合は、町民に説明をしてほしい。
→プール管理の専門性が求められることもあるので、行政のサービス向上の手法のひとつとして現在検討をしている状況である。

- 多目的ルームは何畳程度であるか。
→40畳程度の想定である。

- 子どもがぐずった場合はどこであやせばよいか。
→例えば1階のホールが考えられる。様々な活用ができるスペースを整備していく。
- 最初に設置していた看板を復刻することは考えているか。現在は看板のデザインが変わってしまった。
→当初の原画について、写真はあるが、現存していない。現在の看板の原画は保管している。そういった思いは大切にしていきたい。